

ピアノ学習の「未来像」を見せる

東京都板橋区にお住まいの壁谷文男先生は、子供から指導者まで広くご指導をされている。コンサートに行くのも重要な「レッスンの一部」とおっしゃる先生は、初めは「大勢で勢いのある音楽」を勧めているそうだ。その理由は？



壁谷 文男 先生
(正会員・東京都板橋区)

——生徒さんにどんな音楽をお勧めすることが多いですか？

必ず、ピアノ協奏曲を先に聴かせるようにしていますね。ピアノを勉強している者にとって、やはり自分が主役というのが魅力ですね。しかも大勢というのがいいでしょ。他では、ベートーヴェンの第9も、初めてコンサートで聴くにはいい選曲ですね。4楽章だけでもいいんですよ。音楽やっている、大勢のものに参加するというのは嬉しいことですよ。

——なるほど、聴くのは協奏曲が先なんですね。

ピアノ協奏曲は自分が主役で、周りを従えて、王様という感じでしょうか。これが出来るまではピアノをやっているでもいいかなという“未来像”を持って欲しいですね。協奏曲ができるまでは、ピアノをやめたくないと感じさせる。その後にはリサイタルを聴くという順番ですね。リサイタルなら若い旬のといった感じのピアニストを薦めます。

他にはウィンドオーケストラでもいいので、大勢で勢いのある音楽を勧めています。この音楽の間からは抜けにくいという感じさせる。そういう感覚って、あるんじゃないかと思っているんですよ。

——生徒さんと演奏会に行くようになったきっかけは？

はじめは生徒をなんとなく演奏会に連れて行ったのですが、振り返ってみると、音大に進んだ生徒、専

門家になった生徒は、必ず自分が演奏会に連れて行った生徒だった訳です。だったら、みんなを連れて行ったら、効果が上がるかなということで、意識的に連れて行くようになっていきましたね。

——レッスン同様コンサートも重視されていらっしゃるんですね？

レッスンするとか練習するというのが日常なことなら、非日常なことをどうやって活用するのかというのが、一番いい指導ではないかと思うんです。音楽を鑑賞するとか、発表会に出るとかコンクールを受けるというのは、全部でセットになっているという考えをしたい。ステージの体験が貴重ですね。ステージが上手にしてくれると感じています。私は、レッスンだけで生徒を上手にしようと、それほど自惚れてはいないんですよ。(笑)

——コンサートに行く際のアドバイスは？

小学生の生徒のご父兄には、せいぜい大人っぽく送り出して、ホールに負けないくらいのおしゃれをさせてとか言いますね。そういうことによって、その場所やその分野に認められていると子供が感じ取ってくれたりすることが、割と長く音楽とつきあってくれることに繋がっているようです。

——ご両親の反応はいかがですか？

はじめは指導者が連れて行った方が効果的なのですが、そのうち親子で行ってもらうようにしています。ご両親も音楽好きになってくれるのは、喜ばれますね。特にお父さんが娘と音楽会に出かけるのは、親子ともに嬉しい。それがとてもいい回転になっているようです。

——ありがとうございました。